

令和2年度事業報告

公益財団法人交通文化振興財団

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により当財団の事業活動も影響を受けた1年であった。京都鉄道博物館においては令和元年度2月29日に始まった臨時休館が、6月14日までの約3か月半継続となった。再開館後は、(公財)日本博物館協会が策定した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」に沿って館内の感染症対策を実施しながら段階的に通常運営へと戻すことができた。しかしながら、年度初の休館に加え、外出自粛ムード、インバウンドの消滅、2度目の緊急事態宣言の発令(1月14日～2月28日)等の影響を受け、令和2年度の有料入館者数は286千人に留まった。今後もしばらくの間は以前のような来館者数は見込めないことから、永続的な博物館運営を継続させるための経営改善に取り組み、人員配置やサービスの見直し、業務の内製化等、次年度以降の運営態勢の再構築を行った。

事務局では、交通資料調査センターにおいて、緊急事態宣言発出に伴う対外業務の一時休止を挟みながら、職員、関係者の感染防止に配慮したうえで、資料の収集、保存、調査、研究業務を継続的に行うとともに、デジタルアーカイブ「交通文化振興財団デジタル資料館」の運営や資料寄贈に対する相談への対応、外部団体の企画への調査協力、webセミナーの配信等を通じて交通の歴史資料を保存する意義の社会への浸透を図った。また、事務局ブログ等のweb媒体を活用し、情報発信や寄附金懇話活動を実施した。

I 博物館運営等を通じた交通文化の振興

1 京都鉄道博物館

(1) 常設展示

ア 新規展示

- ①本館2階「アコモデーション」W7系グランクラス座席展示(4月)
- ②企画展関連展示「新快速」パンフレット、ポスター展示(9月、12月)
- ③本館1F「鉄道のあゆみ」パンダくろしお模型展示(3月)
- ④本館2階「今の駅 昔の駅」駅長室内展示(8月)
- ⑤本館1階「車両工場」での車両展示

117系直流近郊型電車(11/7～10)、443系交直両用電気検測試験車(12/19～22)、117系直流電車「WEST EXPRESS 銀河」(1/2～4)、キハ32形・キハ185形ディーゼルカー「藍よしのがわ トロッコ」(2/20～3/16)

イ 展示品整備

鉄道ジオラマの模型車両のモーター・台車の整備調整、「列車を安全に走らせよう」の車両及び線路メンテナンス、運転シミュレーターのメンテナンス、実物車両車内リネン類の整備、クモハ100ドア開閉器修繕、実物車両内電灯交換、実物車両前照灯交換 等

ウ 施設、設備工事

- ①消防設備、空気環境測定、水質検査測定等の定期点検対応
- ②コロナ対策を含めた館内案内サインの修正・追加、館内マップのQRコード化
- ③大型機器保守点検、防火シャッター点検

- ④コロナ対策のため本館2階キッズパーク遮蔽
- ⑤大型空調機GHP外調機の修繕
- ⑥特別収蔵庫加湿除湿器修繕
- ⑦本館2階鉄道ジオラマ機器改修作業

(2) 企画展、資料展

ア 企画展等

- ① 特集展示「この秋は新快速で50(ゴー)～学んで、遊んで、しんかいそく!～」(9/19～12/13、12/19～3/14)

運行開始から50周年を迎えた「新快速」をテーマに、館内全体で特集展示及び関連イベントを実施した。

イ 資料展等

- ① 「鉄道ネクタイピンの世界」(6/15～9/27)
- ② 「列車の表示板 色いろ」(10/3～1/17)
- ③ 「輝く記念品展」(1/23～4/4)

ウ 収蔵写真展

- ① 「大正・昭和時代の鉄道工事」(6/15～9/6)
- ② 「写真で見る新快速」(9/12～12/20)
- ③ 「現役時代の展示車両」(12/26～3/28)

(3) イベント等

ア 春イベント「地域とみんなをつないで結ぶハローキティ新幹線展」(2/22～9/6)

※令和元年度からの継続

イ 京都鉄道博物館ナイトミュージアム(8/8～16、10/30～11/2)

ウ 特集展示「この秋は新快速で50(ゴー)」関連イベント

- ・「君も新快速だ!新快速“ヘッド”マークでGo」(9/19～22)
- ・「新快速スタンプラリー」(9/19～11/23)
- ・講演会「新快速一車両デザインの50年」(10/11) 講師:南井健治氏
- ・4周年記念硬券配布(10/14～30)
- ・講演会「新快速が走り始めたころ113系、153系から117系へ」/「新快速が果たした役割と私の思い出」(11/1) 講師:福田静司氏/伊原薫氏
- ・「京鉄博 AUTUMN LIVE! With 大瀬戸千嶋」(11/21)
- ・「みんなの思い出新快速」(2/11～3/14)
- ・講演会「車両設計による“新快速ブランド”づくり～JR西日本車両のデザインの歴史、221系から223系、225系～」(2/23) 講師:大森正樹氏

エ プラチナトレイン(アプリゲーム) GPSチェックラリー(投票11/26～1/31)

オ 冬イベント「鬼滅の刃 京之御仕事 弐」(12/26～4/11) 東映太秦映画村、嵐電との共催

カ 新春SL頭出し展示、旧二条駅舎国旗掲揚(1/2～11)

キ acosta!@京都鉄道博物館(2/7、3/7)

- ク JR四国「藍よしのがわトロッコ」展示関連イベント（2/20～21、3/14）
- ケ 春イベント「プラレールフェスティバル in 京都鉄道博物館」（3/20～5/11）
- コ LINE 公式アカウント友だち限定大感謝 DAY！（3/20）
- サ 「梅小路 キッズアートキャンパス 2020」館内ライブ中継（12/6）
- シ 「下京デジタルスタンプラリー」に協力（12/18～1/17）
- ス 「京都七条通界限商店街スタンプラリー2021」に協力（1/14～31）
- セ 科博連サイエンスフェスティバルに協力（1/16）

分散開催となったため学芸員実習の一環として、手回し発電機による発電と鉄道模型走行の実験を実施した。

ソ 各種ワークショップ等の実施

車両解説セミナー：「ヨ！ワム！And more！」（2/13、14）

展示品解説セミナー：「実況！新快速」（9/19、20）「硬券印刷」（11/14、15）

工作教室：夏のサイエンス工作「手作り乾電池で昔の信号機を作ろう！」（8/5、6）、夏の工作「SLミニナンバープレートを作ろう！」（8/7～9）

その他：鉄道映像上映「大正ハチロク復活噺」（1/9～11）、子供向けワークショップ「デコって！マスクシール」（10/17、18、12/12、19）、「オリジナル缶バッジをつくろう 2021」（3/20、21）

タ 学芸員講座「おとなの学び講座」（9/24、10/15、11/19、12/10、1/21、2/18、3/18）

(4) 定例行事・活動

ア 鉄道ジオラマの運転：1,681回

イ SLスチーム号の運転：運転回数 2,011回、乗車人員 104,683人（約52人/回）

(5) 広告・宣伝・誘致活動

項 目	数 量
ア JR媒体	
(ア) ポスター等の掲出（JR手配）	（イベント、通年ポスター） 3回
(イ) 西NAVI、とことことん等の掲載	（コロナのため掲載見送り） 1回
イ 案内チラシの配布	
(ア) イベント用チラシ（JR手配）	（イベント） 70,000枚
(イ) 通年チラシ	15,000枚
ウ マスコミへのパブリシティの配布 （関係記者クラブ、出版関係各社等）	毎月合計約70箇所へ配布 31回
エ 誘致活動	
(ア) ホームページアクセス件数 （2020.4.1～2021.3.31）	1,836,000件 （1日平均5,024件）
(イ) フェイスブック投稿件数	223件（1ヶ月平均18.5件）
(ウ) マスコミ取材対応	174件

(エ) LINE@による情報配信 ・お友達登録数 ・情報配信（クーポン配信含む）	73,865人（年度末総累計） 30件（1ヶ月平均2.5件）
(オ) インスタグラム投稿	129件（1ヶ月平均10.7件）
(カ) Twitter 投稿件数	98件（1ヶ月平均8.1件）

(6) 教育普及活動

ア 教育普及活動の実施

- ・連携授業：京都産業大学「0/OCF-PBL2」（前期）
- ・博物館実習の受入れ：5校 計5名
- ・京都大学浅利研究室 SDGs 勉強会実施 11名（8/31）
- ・大学コンソーシアム京都 単位互換事業「京都ミュージアムPBL」への参加・協力（9月～1月）
- ・総合学習受入れ：京都市立梅小路小学校（11/17）
- ・全国高校生地方鉄道交流会 最優秀賞発表会への協力（12/25）

イ 館内視察等への対応

- ・京都市館施設協議会（8/21）

(7) 博物館関係コミュニケーション活動等

- ア 京都市内博物館施設連絡協議会総会出席（8/21）
- イ 鉄道工友会 西日本支部 WEB 講演会参加（2/1）
- ウ 全国科学博物館協議会「令和2年度第2回総会、研究発表大会」出席（WEB開催、2/25～26）

(8) 入館者数の状況（入館者数の詳細は「別表1」のとおり。）

（単位：千人）

項目	京都鉄道博物館
令和2年度	286

2 事務局における文化遺産調査及び交通資料の収集・保存に関する事項（交通資料調査センター）

交通に関わる文化遺産の調査や歴史資料の収集・保存については、交通文化の継承と資料の散逸防止及び今後の公益活動の充実のため、財団事務局内の交通資料調査センターにおいて引き続き活動を実施した。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現地調査等を休止した時期があったが、その一方で資料の寄贈申し込み件数は増加した。主な交通に関わる文化遺産の調査及び交通資料の収集、保存、公開の活動は以下のとおりである。

(1) 交通関係歴史資料の収集・保存

交通に関わる歴史資料を適切な環境で保存、管理するため、収集、整理・整備を行い、写真資料を中心に収蔵資料のデジタル化作業を実施した。ゴールデンウィーク後からの資料寄贈の申し出の増加に対応するため、保管庫の什器整備等を行った。また、個人コレクションの所有者やその家族からの依頼により、コレクションの内容を調査し、当該コレクションの寄贈受け入れを実施した。

- ・ 図書・資料の購入 66 点
- ・ 受贈 47 件 32,291 点
- ・ 資料・図書の整理・登録 資料 1,665 点 図書 1,737 点
- ・ 資料のデジタル化 19,551 点

(2) デジタルアーカイブの運営

交通資料調査センターの所蔵資料を web にて公開する、デジタルアーカイブ「交通文化振興財団デジタル資料館」の掲載データの追加等を実施した。

令和2年度末掲載点数	9,973 点
令和元年度末掲載点数	8,587 点
年度内追加点数	1,386 点

(3) 文化遺産調査

日本各地に残された交通に関する施設や建造物、車両、文書等の文化遺産について、文化遺産の現状確認と来歴や諸元等を記録保存するための現地調査及び文献による事前事後調査を実施し、文化遺産の後世への継承に努めた。また、外部団体が発行する情報誌の鉄道遺産紹介企画に調査協力し、共同で現地調査を実施するとともに、その成果を基に全13回の連載記事として掲載された。

調査事物：41 件

(4) その他

- ・ 財団ホームページの「事務局ブログ」を活用し、調査・資料収集の様子、収蔵資料に関する情報発信を行った。
- ・ 事務局内に図書の閲覧スペースを設置し、閲覧対応及び調査・研究への協力を実施した。
- ・ 外部有識者（大学教員）に交通資料調査センター特別調査員を委嘱し、活動における公益性の担保及び内容の充実を図った。
- ・ 現地調査の機会を利用して調査事物の管理団体や保存団体との情報交換を実施した。
- ・ 現地調査時に撮影した写真や動画を活用した「交通資料調査センターwebセミナー・見学会」の配信を実施した。

II 財団運営に関する事項

1 本年度の役員等の異動

(1) 評議員

《退任》 伊勢 正文、稲見 光俊 以上 令和2年6月17日付
《新任》 澤井 潔、坪根 英慈 以上 令和2年6月17日付

(2) 理事

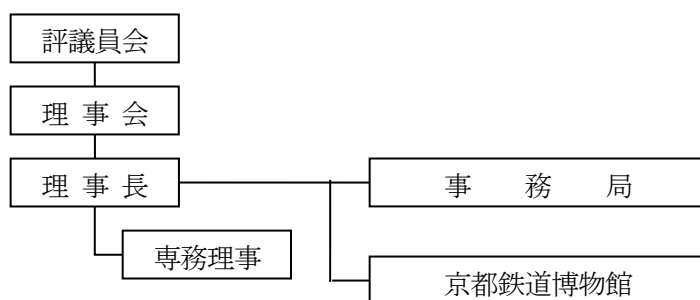
《退任》 来島 達夫、三林 宏幸 以上 令和2年6月17日付
《新任》 井口 亮資、長谷川 一明 以上 令和2年6月17日付

令和3年3月31日現在の評議員、理事、監事は[別表2]のとおりである。

2 財団組織

(1) 組織

(令和3年 3月31日現在)



(2) 構成員

(令和3年 3月31日現在)

事業所名	職員	嘱託	計
事務局	3	—	3
京都鉄道博物館	18	—	18

- ・役員を除く。
- ・京都鉄道博物館の職員のうち3名はJR西日本からの出向者。
- ・京都鉄道博物館の職員のうち3名は事務局兼務。
- ・上記以外に事務局にて臨時雇用員を3名、京都鉄道博物館にて準職員1名、臨時雇用員1名を雇用している。

(3) 会議

ア 評議員会

第17回評議員会（定時評議員会）

(ア) 日時 令和2年6月17日

(イ) 場所 ホテルグランヴィア大阪

(ウ) 目的事項

① 決議事項

- 第1号議案 令和元年度決算の件
- 第2号議案 評議員2名選任の件
- 第3号議案 理事2名選任の件
- 第4号議案 常勤理事の報酬額の決定の件

② 報告事項

- 報告1 令和元年度事業報告の件

イ 理事会

第35回理事会（みなし決議）

- (7) 提案者 代表理事理事長 来島 達夫
- (4) 提案の内容 第1号議案 令和元年度事業報告の件
第2号議案 令和元年度決算の件
第3号議案 第17回評議員会（定時評議員会）の招集の件
- (ウ) 報告事項 報告1 職務執行状況報告の件
報告2 西日本旅客鉄道株式会社に係る代表理事理事長の利益相反取引の報告の件
報告3 資金運用報告の件
- (エ) 決議及び報告があったとみなされた日 令和2年5月29日
(監事による異議（定款第38条第2項）なし)
- (オ) 職務執行状況報告について

本理事会については、5月25日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発出により、定款第38条第2項に基づくみなし決議に変更となった。そのため、代表理事理事長及び代表理事専務理事の職務執行状況報告については、書面による報告とした。なお、本措置については内閣府公益認定等委員会事務局に確認の上実施したものである。

第36回理事会（みなし決議）

- (7) 提案者 代表理事専務理事 三浦 英之
- (4) 提案の内容 議案 代表理事理事長の選定の件
- (ウ) 決議があったとみなされた日 令和2年6月23日
(監事による異議（定款第38条第2項）なし)

第37回理事会

- (7) 日 時 令和3年3月8日
- (4) 場 所 ホテルグランヴィア大阪
- (ウ) 目的事項
 - ①決議事項 第1号議案 令和3年度事業計画書の件
第2号議案 令和3年度収支予算書の件
第3号議案 令和3年度資金調達及び設備投資の見込みの件
第4号議案 用途を指定した特別寄附金受入れの件
 - ②報告事項 報告1 職務執行状況報告の件

(4) 内閣府へ届出

- ・令和2年6月30日 事業報告等の提出
「令和元年度財産目録」「令和元年度貸借対照表」「令和元年度正味財産増減計算書」等
- ・令和2年7月17日 変更の届出（代表理事、役員等の変更）
「役員等の名簿」「履歴事項全部証明書」等
- ・令和3年3月26日 事業計画書等の提出
「令和3年度事業計画書」「令和3年度収支予算書」「令和3年度資金調達及び設備投資の見込みについて」、「第37回理事会議事録の写し」

3 寄附金の受入れ

個人及び団体より寄附金の申し込みがあり、下記のとおり受入れた。

- ・一般寄附金 個人 18件（うち継続寄附4件）
 団体 1件
- ・特別寄附金 個人 1件

4 その他

(1) 財団事務局ブログ運営

- ・更新36回、年度累計 42,952PV

(2) 寄附金の懇話活動

- ・ホームページ及び事務局ブログによる寄附お願いの掲載・発信
- ・団体、個人へのパンフレットの配布
- ・寄付月間（12月）の賛同パートナーへ登録し、期間中、事務局ブログでの周知、パンフレット・オリジナルカレンダーの送付等の寄附金懇話活動を実施。

(3) 職員等の一時帰休の実施

京都鉄博物館の臨時休館及び運営状況を鑑み、同館所属職員等の一時帰休を実施した。

- ・5月1日～7月31日に延べ76日実施

III 関連事業

博物館来館者の利便に資するとともに、当法人が健全な発展を図るための収益事業として、京都鉄道博物館にて鉄道に関する各種のグッズ、土産品、飲食物などの販売を行い、下記の収益を得た。

単位：円

項目	物品販売収入	営業料収入	計
金額	2,530,200	11,595,352	14,125,552

[別表1]

令和2年4月1日～令和3年3月31日

	種 別		令和2年度 (千人)
京都鉄道博物館	個人	大 人	199
		大学生・高校生	9
		中学生・小学生	25
		幼 児	43
		計	276
	団 体	大 人	0.4
		大学生・高校生	0.4
		中学生・小学生	5
		幼 児	4
		計	10
	合 計		286

[別表 2]

評 議 員 名 簿

氏 名	現 職
赤石 良治	東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役
澤井 潔	公益財団法人鉄道総合技術研究所 監事
正司 健一	神戸大学名誉教授
坪根 英慈	西日本旅客鉄道株式会社 執行役員総合企画本部副本部長
南條 正幸	関西鉄道協会 専務理事
福山 隆夫	京都駅ビル開発株式会社 代表取締役社長

理 事 名 簿

役 職	常勤 ・非常勤	氏 名	現 職
理 事 長	非常勤	長谷川 一明	西日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長
専務理事	常勤	三浦 英之	公益財団法人交通文化振興財団 専務理事
理 事	非常勤	井口 亮資	東日本旅客鉄道株式会社 総務・法務戦略部次長
理 事	非常勤	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会 専務理事
理 事	非常勤	高野 光司	公益財団法人日本交通公社 理事
理 事	非常勤	福島 純	西日本旅客鉄道株式会社 執行役員広報部長
理 事	非常勤	村林 健吾	北海道旅客鉄道株式会社 総務部長

監 事 名 簿

役 職	常勤 ・非常勤	氏名	現 職
監 事	非常勤	竹山 健二	公認会計士
監 事	非常勤	藤原 嘉人	西日本旅客鉄道株式会社 執行役員財務部長

令和3年3月31日現在 五十音順 (敬称略)

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

令和3年5月

公益財団法人交通文化振興財団